

地域活動

Q&A

■地域の人々と対話の場をつくる

Q 自治会や町内会において、その地域に住む方々と対話の場を設けたいと思っております。一人一人の多様な意見・考え・思いをすくいとすることができ対話の方法はありますか。

A まず、質問にお答えする前に、いただきたい質問で考慮しなくてはならないことは「対話」というものです。よく「議論」と「対話」を混同されることが多いのですが、二つは大きく異なります。「議論」は、意見の異なる方々と話し合いながら、与えられたテーマについて意思決定や終着点を見つける作業。一方で「対話」は、意見や考えの異なる方々と話し合いながら、その違いについて率直に述べ合い、その違いを理解し、尊重していく作業のこと。

この二つの違いを前提とした上で、「対話」をするための方法についてお答えすると、「ワールド・カフェ」という手法は、とても有効であるかと思えます。この「ワールド・カフェ」は、アニータ・ブラウンとデイビッド・アイザックスによって開発・提唱されました。知識や知恵は、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる「カフェ」のような空間でこそ生まれる、という考えに基づいた話し合いの手法です。

では、具体的なやり方を四つのステップに分けてご説明します。(例…16人が参加する対話の場。時間は1時間半。)

〈ステップ1…カフェのようなリラックスできる空間づくり〉

「ワールド・カフェ」では、自分の意見を率直に話してもらうことが重要になってきます。そのためには、リラックスした雰囲気づくりが大切。そこで、美味しいお菓子や花などを飾って明るい雰囲気になります。

〈ステップ2…4人一組で席に着いて、20分程度話し合う〉

ひとつの机に4人(対話を深める上で、上限4人が推奨)が座り、四つのテーブルをめぐります。その際、一つのテーブルに大きな模造紙1枚とペンを人数分用意。そして、各テーブルが同じテーマについて話し、テーマ

について思ったことや考えたことを自由に模造紙に書き込みながら話をします。

〈ステップ3…20分で一人を除き他の人は席を移動。意見を共有し、再度対話を深める〉

20分の話し合いを3回行います。1回の話し合いが終わるごとに一人を残して全員が別のテーブルにそれぞれ移動。一人残った人は別のテーブルから移動してきた人にそのテーブルで話された内容を伝えます。この時に、模造紙に書かれた前席の方々の意見・思いを参考にします。そして、その作業を通して次の対話を深めていきます。

〈ステップ4…最後は全員で共有〉

3回目の対話が終わったら、全体で情報共有をします。意見や考えが異なる方々がいて、そこでの興味深かった意見や自分とは全く異なる意見に出会ったこと、感想、多様な意見に触れて新しいアイデアが生まれたことなどについて自由に話をします。

この手法を実践する上で参加者が心得ておかなければならないことが三つあります。それは、「人の話を遮らないこと」・「人の話をきちんと聞くこと」・「人の話を否定しないこと」。これによって、自分の意見が否定されないという安心感が生まれ、参加者は自由に意見が出しやすくなります。

それでは、ぜひとも「ワールド・カフェ」にチャレンジしてみてください！